

全米市長による政策アイデアコンテスト

ニューヨーク事務所

2012 年 6 月、ニューヨーク市のブルームバーグ市長が、全米の各市長に呼びかけ、自治体が抱える諸問題を解決するための革新的アイデアを募集するコンテスト「MAYORS CHALLENGE」の実施を発表してから、8 ヶ月が経過した。この取組みの現在の動向について、紹介することとする。

1. コンテストの概要

<MAYORS CHALLENGE とは>

「MAYORS CHALLENGE」とは、ブルームバーグ市長の財団「Bloomberg Philanthropies」が、全米1,300の市長に呼びかけ、自治体が直面する共通課題を解決するための政策アイデアを募集するコンテストのことである。

本コンテストで優勝した市には5億円、準優勝（4団体）には、それぞれ1億円の賞金が財団から贈呈される。



<参加条件>

2010年の国勢調査に基づき、人口3万人以上の市であれば、いずれも参加可能（ブルームバーグ氏が市長のニューヨーク市は資格なし）

<選考基準>

以下の4つの基準に基づき、選考が行われる。

- 1 Vision：斬新さ、創造性及び将来性が備わっていること
- 2 Implement：予算、期間等の観点から、実施可能なものであること
- 3 Impact：重大な社会問題又は経済問題がテーマとされていること
住民や企業向けサービスの改善に繋がるもの
行政事務の効率化、経費節減等に繋がるもの
- 4 Replicate：他市の課題にも関連し、採用可能なものであること

<スケジュール>

- 1 アイデア募集：2012 年 9 月まで
- 2 書類選考：ファイナリスト 20 団体の決定
- 3 アイデアキャンプ：2012 年 11 月
- 4 アイデア最終提出：2013 年春
- 5 最終発表：2013 年 9 月

<募集から現在までの経過>

2012 年 9 月までに 305 団体が、政策アイデアを提出した。

305 団体は、全米 45 州に渡り、当該団体内に居住する市民は、6,400 万人にも及んだ。なお、このうち、人口 10 万人以下の市が、全体の 51%、人口 10 万人以上 21 万人未満の市が 24%、人口 21 万人以上の大都市が 25%となった。政策アイデアの分野は、経済発展、住民サービス、健康福祉、教育、経費節減対策等、多岐に渡っている。

書類選考の結果、ファイナリストとして、以下の 20 団体が選ばれた。



- ・ボストン ・シカゴ ・シンシナティ
- ・ダーラム ・ハイポイント
- ・ヒルズボロ ・ヒューストン
- ・インディアナポリス ・ノックスビル
- ・ラファイエット ・レキシントン
- ・ミルウォーキー ・フィラデルフィア
- ・フェニックス ・プロビデンス
- ・セントポール ・サンフランシスコ
- ・サンタモニカ
- ・スプリングフィールド

ファイナリストの 20 団体は、2012 年 11 月 4 日にニューヨークで開催された 2 日間のアイデアキャンプに参加し、本財団選出の各分野の専門家とのセッション等を通じて、アイデアの洗練作業を行った。

現在、各団体は、今春に締切となっているアイデアの最終提出に向けて、準備をしている最中である。

2. ファイナリストのアイデアの紹介

ファイナリストに選ばれた 20 団体のアイデアについて、一部を紹介する。

<ノックスビル（テネシー州）>

ノックスビルは、現在、活用されていない広大な空を抱えており、これらの土地の維持管理に係る諸経費として、毎年およそ 1 億 2 千万円を負担している。

同市では、この空地を活用し都市農業 (Urban farms) を実施する予定である。現在、同市は、市民の食料入手しやすさランキングが、全米でワースト 17 番目となっていることから、民間企業や NPO と共同し、道路や輸送等の環境整備を行い、市民への食料供給の促進と雇用創出を図ることを目指している。本プロジェクトは、2 年間で実施される予定であり、現在、議会において、取組みに向けた州法改正の議論が行われているところである。

<スプリングフィールド (オレゴン州) >

同市では、財政を圧迫している医療費に焦点を当て、モバイル・ヘルスケア (Mobile Healthcare) という新たな遠隔治療サービスの導入を予定している。その背景として、市の医療費のうち、救急車や救急救命室等の緊急医療に係る諸経費が財政に重く負担となっていること、また、緊急治療が必要でない患者による緊急治療の利用増加が挙げられる。



本サービスは、最新のコンピューター技術、インターネットや衛星を駆使して、病院へ直接行かなくても、パソコン等の画面を通じ、看護師や医師の診察を 24 時間いつでも受診できるというものである。そして、受診の結果、医師又は看護師が、遠隔治療では適切な措置を行うことが困難であると判断した場合、救急車の派遣、専門医や病院の紹介等が、適宜行われることになっている。

なお、同市では、従来から医療政策に積極的に取り組んでおり、突然心停止となった心臓に対して、電気ショックを与える AED (自動体外式除細動機) を市の全ての救急車に備え付けを行った全米最初の市でもある。

※その他団体のアイデアについては、以下のサイトを参照

<http://mayorschallenge.bloomberg.org/>

3. 今後の行方について

この「MAYORS CHALLENGE」は、全米の各市長が自身の市だけでなく、各市が直面している共通課題に向き合い、それぞれがユニークな解決策を練り出し、共有していくというものであり、非常にユニークな試みである。

今回、ファイナリストに選ばれた 20 団体のうち、一部を紹介したが、その他の団体のアイデアも、様々な工夫がなされており、とても興味深いものばかりであった。コンテストの最終発表は、今年 9 月となっている。ブルームバーグ市長が「今回のコンテストで生まれる自治体及び国家への成長に繋がる」と当初述べた、これら革新的アイデアのうち、どのプロジェクトが最優秀賞に選ばれるのか、最後まで調査していきたい。

(細田元所長補佐 総務省派遣)